

また家持やかもちの作る歌一首 并あはせて短歌

四六六番

我がやどに 花はなそ咲さきたる そを見みれど 心こころも
ゆかず はしきやし 妹いもがありせば 水鴨みかもなす
二人ふたり並び居ゐ 手折たをりても 見みせましものを うつ
せみの 借かれる身みなれば 露霜つゆしもの 消けぬるがごと
く あしひきの 山道やまぢをさして 入日いりひなす 隠かくり
にしかば そこ思おもふに 胸むねこそ痛いたき 言いひもえず
名付なづけも知らず 跡あともなき 世よの中なかなれば せむ
すべもなし